

第14号
No.14

令和3年11月1日発行
November 1, 2021

特定非営利活動法人東京モンテッソーリ教育研究所

T. I. M. E.

Tokyo Institute of Montessori Education

<http://montessori.or.jp/>

Chair Person Yumiko Hirose General Secretary Kazumi Aoki

理事長 廣澤弓子 事務局長 青木和美

Editors Ph.D. Masako Ejima Kazuko Hotta

編集委員 江島正子 堀田和子

〒112-0002

東京都文京区小石川2-17-41

富坂キリスト教センター2号館内

Tomisaka Christian Center 2

2-17-41 Koishikawa

Bunkyo-ku, Tokyo, Japan

Tel. 03-5805-6786

Fax. 03-5805-6787

✉ info@montessori.or.jp

巻頭言

「忘れられた市民」への 敬意と子どもの観察の重要性



東京モンテッソーリ教育研究所 附属教員養成コース コース長

前之園 幸一郎

かつてモンテッソーリは「子どもはあらゆるものが自分以外の者のために存在している世界に暮らしている忘れられた市民です」（『子どもの精神』）と述べました。これは子どもの存在を無視してきた伝統的偏見への痛烈な批判でした。モンテッソーリは、子どもが個性的で尊厳に満ちた人格であり「いのち」の主体であることを宣言しました。子どもは保護と援助のみを必要としている弱弱しく無防備な存在ではない。生まれつき固有の精神を持ち、繊細な本能に導かれて人間としての人格を積極的に造り上げていく存在であると考えていたからです。（『教育と平和』）

聖書の言葉「はっきり言っておく。私の兄弟であるこの最も小さい者にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」（マタイ 25・40）を引用しながら、モンテッソーリは「キリストが子どものいろいろな姿のもとにすべての人々を助けて下さるのをわれわれは見るでしょう」（『幼児の秘密』）と述べています。これは子どもの豊かな可能性と使命についてのゆるぎない確信によるものでした。「最も小さい者」はすべての苦しむ人々、弱者、そして特に子どものうちに隠れておられるキリストを意味しています。

「観察しながら待ちなさい」（モンテッソーリ）は、親や保育者が真実の子どもの姿を真摯に見出すよう促すよく知られている言葉です。これを実現するためには絶えざる自己変革の努力が求められます。豊かな経験に裏打ちされた私たちの敬愛する先輩教師の言葉「育てながら育ち 育ちながら育てる こどもと共に」（『たんぽぽにかこまれて』下條善子）はまことに的確に子どもと保育者との微妙な関係を示唆しています。子ども理解には果てしない努力が求められています。

理事長就任のご挨拶

東京モンテッソーリ教育研究所理事長 廣澤弓子

令和3年5月の総会において前理事長故天野珠子先生の後任として、代表理事（理事長）に就任いたしました。

前理事長の元で学んだこと経験したことが感謝と共に思い出されます。これからはお教えいただいたことを力に微力ではありますが、モンテッソーリ教育の発展に専心努力したいと思っております。東京モンテッソーリ教育研究所の大きな活動は附属教員養成コースでございます。梅田子どもの家、上智大学、東京と沢山の皆様、先輩のお力、お支え、熱い思いがあつてこそ繋いでくることができた「今」と考えております。

子どものよき援助者としての使命感をもった人材を養成し、現場へ送り出すことが私たちの役割と存じます。子どもにとって教師が暖かく愛情深く安心感を与えてくれる存在であることは勿論ですが更にモンテッソーリ教育を学び、子どもの前に立つのであればまずは謙虚で、子ども一人ひとりが内に秘めている個人の成長発達のプログラムに添うことができるよう「画一的に、効率よく」を避け、「自発性と個」を尊重しながらの援助をしていただきたいと思います。

マリア・モンテッソーリの世界観、生命観、環境、自由と規律、幼児期の特別な能力—吸収精神・敏感期（見逃さない）・集中現象（妨げない）、教具の正しい理解等々、学生が学ぶ量は膨大なものでございます。この一つ一つが全て子どもの人格形成に深く関わってくることを思うと、学生も我々も最大の努力を惜しまず取り組んで参らねばという思いを強くしております。

修了生の皆様、及びこれからディプロマを取得される皆様、そして我々もまた学びの過程にあります。時間に追われて読めなかったモンテッソーリご自身の著書の読破、あるいは読み返しをしたり、また、現在いろいろな事情を抱えた子どもが増えている事実を鑑みて適切な援助ができるよう、その為の講座・コース等があればぜひ参加して学びを続けていきたいと願うものです。

未来・平和を担う子どもたちが、心身ともに健やかに成長することを希ってやみません。



故天野珠子理事長を偲んで

東京モンテッソーリ教育研究所
附属教員養成コース主任 堀田和子



去る2021年3月16日、当研究所天野珠子理事長が逝去されました。いつも研究所並びに附属教員養成コースの存続のためにご尽力なされ、最後までコースのため、学生のため、講師たちのために奔走してくださいました。ご逝去の一報を聴き、理事、講師一同は驚きと悲しみにしばらく呆然自失の状態でした。

これまでも何度かご病気や怪我で入院したことがあっても元気に回復し私たちに檄をとばし、明確なビジョンを示してくださいましたので、今回も回復してお元気になられると思っておりました。訃報に接し、講師一同信じられない思いで一杯でした。



故天野珠子理事長とは、1980年にモンテッソーリ教員養成コースが梅田子どもの家から上智大学に全面移行するに伴って、それまでの講師方から新しい講師として上智大学に召集された時のことでした。

当時の主任故松本尚子氏、クラウスルーメル神父のもと、廣澤弓子、南郷治代両講師も召集され、新生上智モンテッソーリコースが発足することになりました。

私はその時廣澤講師と感覚教育、天野理事長と言語教育、南郷講師と文化をともに担当することになりました。天野講師とは実践上とりいれた方が良くと思われる言語教材やプログラム編成、提供法、目的の明確化など全体にわたって指導内容を検討刷新しました。毎回復夜遅くまで話し合い、自園の教材を提供し合いました。当時私はワープロを導入していたので、現在の教科書の元になる教具説明や提供法などを作成しました。その後、一教科一講師という原則となり、現講師が天野講師と担当することになりました。

その後平成18年に上智大学からNPO法人東京モンテッソーリ教育研究所に移行し、理事長として、15年ご尽力くださいました。

故天野理事長の後、廣澤弓子新理事長のもと、講師一同結束を確認して、教員養成に力を注いで参ります。故天野珠子理事長には、モンテッソーリ教育普及のため、もっともっとご活躍していただきたいかっと思ひます。いまままで御苦労さまでした。ありがとうございました。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

第7回ルーメル賞受賞者

ルーメル賞選考委員会 委員長 江島正子

2021年7月30日、日本モンテッソーリ協会（学会）第53回高知全国大会の開会式において天野珠子先生が第7回ルーメル賞を授与されました。天野先生の急なご逝去のためお嬢様の木村悦子先生が代理を務められました。なお、ルーメル賞受賞は次のような経緯によるものです。

ルーメル賞選考委員会の第1回 ZOOM ミーティング（2020年12月3日）において天野珠子氏が第7回「ルーメル賞」受賞者に推薦、決定された。

その理由は天野先生は上智モンテッソーリ教員養成コースでモンテッソーリ・ディプロマを取得し、わが国において大学教員、また実践家として半世紀を超えてモンテッソーリ教育の普及と発展のために尽力された。後年、日本モンテッソーリ協会（学会）の副理事長、特定非営利活動法人東京モンテッソーリ教育研究所理事長として教員養成コースに携わっておられる。

追悼一天野珠子先生を偲んで

言語担当講師 伊藤千恵子

私の恩師である天野珠子先生が去る3月16日にご逝去されたことは未だに信じられなく、まだお会いできる気がしてなりません。

天野先生との出会いは、母校での「乳幼児心理学」の講義でした。とても興味深い講義であり、先生のあっさりとした口調が心地よかったことが思い出されます。卒業後の進路が思うように決まらなく、母校の社会科学研究所で保育実習の事務をしながら自分の進む道を探し求めて教育、保育、生きがいについて考えていた頃天野先生が声を掛けてくださり、「モンテッソーリ教育というものがあるのよ、あなたにぴったりだと思うけれどこの本を読んで見たら」と一冊の本を貸してくださいました。その本は相良敦子先生の「ママ、ひとりですのを手伝ってね!」でした。夢中で読み、読み終えた瞬間、「私の求めていたのはこれだ!」という驚きと、上智モンテッソーリ教員養成コースを受講する決心がついた時の感激は忘れることができません。

2年間コースで学び就職した後も先生は「とにかく経験を積むことが大切だから」と応援して下さり「頑張ってるの、園長先生は元気、あなたのこと心配しているのよ」といつも温かく声をかけてくださいました。

天野先生にはモンテッソーリ教育の出会いから、コースを卒業しこどもの家に勤務、言語の担当講師までに導いてくださり、35年もの間ずっと優しく見守っていただき感謝の気持ちでいっぱいです。

モンテッソーリ教育は、私が求めていた幼児教育であり、我々人間が社会で生きていく原動力となる一人間の教育であることも日々の保育の中で強く感じています。先生にはモンテッソーリ教育に出合わせて下さった感謝の気持ちも伝えられずにとっても残念です。これからもこどもたちの良い援助者となるように研鑽を積みながら、私のできることで先生のモンテッソーリ教育への思いをしっかりと受け継いでいきたいと思ひます。空の上から見守り続けて頂きたいと思ひます。

謹んでご冥福をお祈りいたします。どうぞこれからも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

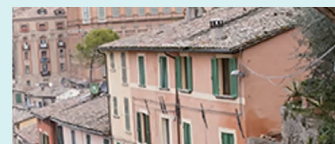


特別講義

「生命への援助であるモンテッソーリ教育」

2021年9月15日（水） 18:00～20:00

講師：世田谷聖母幼稚園 中川明美先生



ペルージャの街並み

日常担当講師 溝脇しのぶ

昨年に引き続きコロナ禍、しかも緊急事態宣言が延長された事で、リモートでの講義となりました。

初めに、中川先生ご自身の幼児教育の始まりと、そこで生じた疑問や葛藤や悩みから扉を開けることになったモンテッソーリ教育との出会い、更にイタリアのペルージャでの学びへと繋がった研修会でのエピソード等のお話がありました。どれもこれもモンテッソーリ教育を深める為に当然のように導かれた道筋だったと感じられ興味深い内容でした。また、ペルージャの沢山の映像はどれも一つとして無駄がなく刺激的で、先生がその環境の中で沢山の事を学ばれたことが伝わってきました。中でもパオリーニ先生の「洗濯」の提供から学ばれた「子どもに見せるときはvivace！（生き生きと）」という言葉通りの生き生きと楽し気な提供のお話を、中川先生が私たちに「本当に素敵だったんですよ！」と表情豊かにお伝えくださったのが印象的でした。

現在も世田谷聖母幼稚園で主幹としてモンテッソーリ教育、中でも宗教教育の「私が神様に近づけるように助けてね。神様と仲良くなれるように手伝って」ということを、丁寧に、尚且つ生き生きとお子様の成長に合わせて伝えられておられるご様子が、幾つかのエピソードの中から伝わってまいりました。

賛助会員募集について

特定非営利活動法人東京モンテッソーリ教育研究所では、当NPO法人の目的および事業に賛同して事業を賛助する個人及び団体会員を募集しています。
是非、当NPO法人の趣旨にご賛同いただき、会員としてご協力下さいますようお願い申し上げます。

賛助会員	入会金	年度会費
	10,000円	個人・団体 一口5,000円 ※一口以上からの申込み

入会ご希望の方は、当研究所まで電話またはFAX、E-mailにてお知らせください。申込書をお送りいたします。
電話番号：03-5805-6786 FAX番号：03-5805-6787 E-mail：info@montessori.or.jp

東京モンテッソーリ教育研究所 令和2年度収支決算

収入の部		単位:円
入会金		
	個人	20,000
	団体	0
会費収入		
	個人	230,000
	団体	10,000
事業収入		
	教員養成事業	19,140,690
	指導者支援事業	0
	広報事業	0
雑収入		
	受取利息	2,302
	雑収入	2,975,884
経常収入合計		22,378,876

支出の部		
事業費		
	教員養成事業	9,557,181
	指導者支援事業	0
	広報事業	349,024
管理費		
	役員報酬	270,000
	人件費	214,922
	外注委託費	1,800,000
	会議費	22,371
	旅費交通費	11,970
	通信運搬費	180,084
	消耗什器備品費	98,978
	消耗品費	115,452
	修繕費	0
	印刷製本費	4,022
	光熱水費	25,420
	賃借料	346,836
	租税公課	508,138
	雑費	210,214
経常支出合計		13,714,612

当期収支差額	8,664,264
前期繰越収支差額	43,931,642
次期繰越収支差額	52,595,906

令和3年4月24日 上記の通り相違ありません。 事務局長：青木和美

令和2年度研究所活動報告

1. 会員の動向（令和3年3月31日現在）
 - ①新規入会 正会員 個人 1名 賛助会員 なし
 - ②退会会員 正会員 個人 1名 賛助会員 なし
 - ③会員数 正会員 個人22名
賛助会員 1団体（2口）
2. 活動報告
 - ①教員養成事業 令和2年4月 第15期生 32名入講
令和2年3月 第14期生 21名修了
 - ②指導者支援事業 令和2年8月 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。
 - ③ホームページ等による広報事業
「モンテッソーリ教育」（学会誌）第52号に広告掲載、令和2年11月に「T.I.M.E.」第13号を発行。ウェブサイトを通し、広く一般に東京モンテッソーリ教育研究所及び、附属教員養成コースの活動を発信し、モンテッソーリ教育の普及活動を行った。
<http://montessori.or.jp/>
以上
事務局長 青木和美

令和4年度入講生募集のお知らせ

- 募集定員：土曜コース 25名
出願期間：令和3年12月1日（水）～
令和4年1月12日（水）
出願書類：願書・受験票（所定用紙・写真添付）
最終学校の卒業証明書又は、卒業見込証明書
選考料の振込み金受領書のコピー
選考日程：令和4年1月16日（日）午後1時集合
場 所：富坂キリスト教センター
内 容：小論文（レポート）・面接

※詳細・入講案内は事務局までお問い合わせください。
Tel. 03-5805-6786 Fax. 03-5805-6787
Email: info@montessori.or.jp

編集後記

T.I.M.E. 第14号をお届け致します。コロナ禍の先がなかなか見えにくい地球上の人類のいまですが、モンテッソーリ教育の世界も例外ではありません。東京モンテッソーリ教育研究所附属教員養成コースでは理事長の天野珠子先生の訃報が想定外の出来事でした。本号では天野先生を偲ぶ声のもと、特別講義においてモンテッソーリアンとして円熟された世田谷聖母幼稚園の中川明美先生の講義はこれからの幼児の人間形成をお手伝いするモンテッソーリアンの意気込みを感じました。今回は紙面の都合上「図書紹介」がありませんが、どうぞコースの授業でモンテッソーリ教育の真髄である子どもの「いのちへの援助」(Aid to Life) を学んでいただきたいと思います。 江島正子